

**平成 28 年度第 4 回浜田城周辺整備検討会
委員意見要旨 <発言順>**

基本方針案等に対する意見

No.	内容	
1	意見	多目的ホールを整備しないB案となったことは、やむを得ないところであるが、観光の柱の一つである石見神楽を活かさない手はない。浜田市の活性化のための観光振興の柱として、石見神楽を公演できる場所ができないかとのことで、この検討が始まったので、石中央文化ホールや世界こども美術館といった既存施設の活用も含めて公演場所整備の検討は続けていただきたいと、前回の会議でも申し上げた。この検討は、これで終わるか。
	回答	前回、ご意見は承っているのですが、引き続き検討していきたいと考えているが、この会議で引き続きの検討は難しいと思っている。神楽の公演場所の検討となれば観光面が中心になるが、この会議はどちらかというと歴史・教育分野が中心で委員を構成しているので、新たな組織を立ち上げて検討していく必要があると考える。
	意見	現在、全国各地、北海道、東北から九州まで、四国にも神楽はたくさんある。インターネットで見ると、東北の神楽だけでも多くある。そういった中で、石見神楽は他の地域から「全国一」だと言われており、一つのブランドになっている。九州に行くと「本場の神楽が見たい」と言われ、この2月12日に石中央文化ホールで開催する神楽大会にも山口、九州からたくさんの方が来る。「本場の神楽が見たい」と全国から注目されている。外国に対しても、浜田市のPRを積極的に行っている。「石見神楽」という全国一の郷土芸能を浜田市の観光振興のために活かしてほしい。また、神楽がしたいために、市外に出ずに浜田市に就職したいという若者も多く、定住対策になっている。このような状況で、現在の公演場所では窮屈でありにも気の毒だと、神楽社中やお客さんに対して常々考えている。今後も公演場所整備について検討すると良い回答を受けたので、観光客に喜んでもらい、神楽社中も安心して公演できる場所を探してほしい。併せて、財政負担のできるだけないようにどうしたらよいかを検討してほしい。
	回答	公演施設の整備は見送ることとなったが、神楽上演の映像をスクリーンで放送することは行う予定である。例えば、本来の6調子や口上が

		きちんと分かるようにするとか、神楽の良さが分かる文化歴史が伝わる映像を放送したいと考えている。神楽の映像や展示を観た人が「本物を観たい」とか「ゆかりの場所を訪れてみたい」となり、繋げていけるガイド機能を持てるようにしたい。
2	意見	これまで、多くの議論を交わして、一応の結果としてこの方針案に落ち着いたと思う。かねてから、御便殿が浜田市にあることは知っていたが、これまで利用価値が発揮されていなかった。この方針案では、この建物自体も含めて展示室や多目的学習室とするとあるが、利用されて生きてくるのであればよいことだと思う。新設建物と御便殿の両方に多目的学習室があり、用途は限定されていないが、面積が狭いのではないかと思う。今後、設計の中で検討し、多くの人が利用できるようにしてほしい。これまで議論を重ね、やっと計画が前に進んでいけるとの思いがある。「できてよかった」という施設を整備してほしい。「収益」ということがあり、例えば、多目的学習室は使用料を徴収するかどうかということはあるが、とにかく来館者には展示を観てもらいたい機会になるとよいと考える。浜田市にとって誇れる施設にしてほしい。
	回答	多額の整備費や維持管理費をかけて実施することなので、当然多くの人に利用してもらいたいという思いである。多目的学習室についてのご示唆を頂いたので参考にしたい。学校にも意見を聴き、参考にしながら効果的なものとしていきたい。なお、御便殿側の多目的学習室は、大正天皇が皇太子時代に宿泊された、当時のままの和室を残して活用することを考えている。こういったことも意見を頂きながら、精査していきたい。
3		この基本方針案を見て、大変嬉しく、喜んでいる。1点目は御便殿を活用するという事、2点目は学芸員を常駐させるということである。これにより、継続的に研究が進んでいく。資料館整備の早い実現を望む。
4	意見	議論が進んで、方向性が出たことは良いと思う。私は浜田城建設期成同盟会の代表としてこの会に出席しているので、期成同盟会にこの報告をする必要がある。これまで、期成同盟会で集めた寄附金を市に預けているので、これは会の合意を得た上で資料館整備に活用してほしい。

	回答	期成同盟会の活動により集まった寄附金については、市で基金を設置し、約 4,000 万円程度になるが、適正に管理をしている。資料館整備に当たっては、基金を取り崩し、活用していくことになる。
5	意見	B 案で多目的ホールを整備しなかったことで、私の仕事は終わったかなと思っている。この検討会の構成員について言えば、例えば、会長、副会長と同じくらいの年齢の人たちがもう少しでも良いと思った。また、大正天皇が宿泊した御便殿の価値について教えてほしい。
	回答	御便殿は、明治 40 年に建築され、そのときに初めて皇室の方が石見にお越しになるということで、そのお迎えのための施設であり、浜田はもとより石見地方の人たちがそのために寄附、労働奉仕によって築かれたものである。特徴としては、建物構造そのものが江戸時代の大名屋敷や皇室の建物と同じようになっており、御簾があり、皇室の方をお迎えする特別な部屋構造となっている。更には現在では代え難いような木材を使用しているということである。明治 40 年の当時の新聞によると、「山陰随一の建物」と高く評価されており、松江や鳥取の類似施設と比較しても、当時から既に高く評価されている和風の建築物である。もう 1 点としては、建物規模が大きいということである。「明治 40 年の文明開化」と言われるほど、皇室が来られることによって大きく環境整備が行われた。建築学的にも歴史的にも、浜田の近代化を最も象徴する建築物であり、多くの専門家から高く評価されている。
	意見	御便殿は、浜田の大工によって建てられたか。
	回答	三隅の宮大工によって建てられた。これについては、以前、期成同盟会での活動の際に、三隅の方から資料をご寄附いただいている。建築会社としては、俵三九郎氏が運営していた浜田營造株式会社に依頼したと記録されている。
6	意見	浜田は、昔から漁港の町として栄えてきた。昨年の漁獲量が増えたということで、これから漁獲量が増えることによって、この資料館整備案が出たことは良いことと思っている。そうすることによって観光客も増加すると思う。
7	意見	B 案で方針が決まって、今後で予算化され、計画が実施されていくが、資料館が完成するのは 5 年先なので、この 5 年間で有効に使ってほしい。ソフトの面でいうと、石見地方の地方史の研究者がものすごく減少している。そういった中で気軽に研修に参加できる施設にしてほし

		<p>い。また、新年度、学芸員が採用されると聞いている。そうすると5年間、市民の研究者と一緒に研鑽をしながら市民の士気を盛り上げるという意味で、ともに歩いていけば、展示等にも反映される。私は、今、たたらに関する論文を手掛けているが、石見地方の全体の兼ね合いとして、農家からたたら関係者まで地域を巻き込んでたたら経営をして、地域全体に繁栄しているということがだんだん分かってきた。そういったことも含めながら浜田全体の経済活動がどのように展開されたかということと一緒に研究しながら、展示物に反映されることを期待している。</p>
8	意見	B案では、展示スペースはかなり広がるが、映像シアターは、どれくらい占めるか。
	回答	まだ具体的に想定していない。今後、どの程度必要か精査していく。映像シアターを組み込むとなると、展示スペースの中で設置することとなると考えている。
8	意見	<p>展示については、新たに今までやっていないことをするので、かなり狭いのではないかと思う。展示面積420㎡は、郷土資料館の展示室の約2倍である。御便殿で和紙や石州瓦の紹介をして、新設建物で郷土の偉人の紹介や個人の寄附品の展示をするとすると相当のスペースが必要である。個人からの寄附だと藤永操さんのコレクションがあるが、私が浜田にUターンしたときには、世界こども美術館の収蔵庫に保管されたままであった。これは良くないと思い、当時の市長に話をしたところ、教育委員会から「これまでにコレクション展は行っているが、頻度を上げて行う」という回答を頂いた。郷土資料館での開催では、展示スペースが狭いため、寄附品を一斉に展示することはできなかったが、新たな資料館では常設コーナーを設置してほしい。</p>
	回答	ご指摘いただいたように、郷土資料館では展示スペースが狭く、寄贈品の展示も十分にできない現状である。個人からの寄贈品の展示を新たな資料館で常設とできるかどうかはなかなか難しいと思う。具体的に何を常設とし、企画とするかについては、今後、検討することとなる。
9	意見	<p>神楽で言えば、古い面や衣装を若い人たちは処分する可能性があるもので、そういったものを市で保管してほしいということと、過去に市に寄贈しても全く展示してもらえないという苦情があったと聞いている</p>

		ので、そういったことを対応してほしい。
	回答	以前、神楽関係者の方に木彫りの面があるということで拝見したが、おそらく江戸時代の面で、合併前の浜田市だと市の指定文化財として取り扱ったであろう物と理解している。神楽社中の代が替わると、古いものを処分するというような意識があると聞いているので、古いものの良さが分かる人から受け継いでいくことは重要である。また、寄贈品の展示については、なかなか適当な展示場所がないため、実施できないということがある。資料館ができるまでに5年あるので、仮設的に展示できる場所がないかも含めて検討したい。
10	意見	この検討会で、いろいろな議論があった中、方向性が出たということは、委員はそれに従っていくことが良いと思う。展示については、専門知識のある人たちを中心に進めてほしい。この場合、地元の研究者も大切だが、中立の立場から何が重要であるかを選定できる人がいなければならない。多くの人々が遠くから来られて「これはすごい」と思うような展示をしていく必要があると思う。
	回答	展示内容については、郷土の専門家を含め、専門的な意見、指導を受けながら、今後、検討を進めていきたい。
11	意見	御便殿については、どのような経緯で建てられたかを知らない市民が多いと思う。最近も地元でありながら、御便殿とはどこにあるかという人がいた。そういった意味で、この整備は、地元の人たちにも浜田にはこんな素晴らしいものがあることを改めて認識する良い機会だと思う。御便殿が活かされることは大変喜ばしいと思う。
12	意見	浜田市内でも知らない人がたくさんいると思う。多くの人々が来たいと思うPRをしてほしい。

--- 取りまとめ(識見者意見) ---

No.	内容	
1	意見	新しい整備方針が示されたが、利用されることが一番重要である。そのためには利用者の満足感が得られる施設、企画展示が必要だと思う。また、学校との連携の仕組みづくりを他機関と調整してほしい。
2	意見	浜田の歴史文化が一つにまとまった素晴らしい施設が整備されるということで、非常に輝かしい未来が待っていると思う。浜田市の地方版総合戦略では、産業振興、子育て、UIターン、住みやすい町づくり

	<p>が4つの柱ということで、これらはどちらかというとうIターンを目指したものの印象を受けた。資料館整備は、非常に高額で、浜田市民が負担する金額は、交付金等の活用で少ないということだが、裏を返せば他の子育て支援、うIターンの直接的な政策に使うことができる金額であったということを理解して、今後の事業を進めてほしい。歴史文化や教育を目的としているので、浜田市に対してどのようなイメージを持っているかの現状を把握した上で、資料館が開館した後、利用者がどのように施設を利用して、浜田市に対するイメージが変わったとか、浜田市に対する誇りや思いがどのように変わったとか、うIターンだと非常に時間はかかるが、そういった調査を長期的にしてみたい。</p>
--	--

--- 取りまとめ(会長意見) ---

No.	内容	
1	意見	<p>これまで、委員の皆様から多くの意見を頂いてきたが、今後、市の方で議論を進めて、最終的に決定することになるかと思う。副会長が言われるように、このプロジェクトは安いものではないということを決して忘れてはいけない。これを実施しなければ、他の事業をすることができたということではあるが、この検討会としては資料館整備を進めたいとの総意を持ったということである。そして、検討会や市で勝手に進めたと言われないうためにも、その効果の部分を検証しなければ、市民への説明責任は果たせないと考える。その点で財政的な負担をできる限り抑制していくようにしなければならない。今回、運営費の推計資料が出ているが、この中には減価償却費、建替費用は含まれていないことや、この中に出てこない何かが発生することが考えられる。このことについては、市でより慎重な検討を進めてほしい。このプロジェクトが市民に受け入れられるために、教育委員会、学校としっかりと連携してほしい。子どもたちがメインで活用する教育施設であり、収益施設ではないので、そのことに関して、その重みを市でしっかりと考えなければならない。</p>